令和４年度
文部科学省委託事業

大学等におけるリカレント教育の持続可能な運営モデルの開発・実施に向けたガイドライン（簡易版）

PwCコンサルティング合同会社

（令和５年3月版）

「大学等におけるリカレント教育の持続可能な運営モデルの開発・実施に向けたガイドライン」の概要

はじめに

- 人生100年時代やデジタル社会の到来に伴い、急速に進む雇用の流動化等の社会変化の中で、我が国全体の生産性の向上に繋げていくためには、一人一人が学び、スキルを身に着け、リカレント教育の充実を図ることが重要になっています。
- そのような中で、文部科学省は、大学等によるリカレント教育の実施を後押しするため、「大学等におけるリカレント教育の持続可能な運営モデルの開発・実施に向けたガイドライン（詳細版）」を作成いたしました。
- なお、本ガイドライン（簡易版）は、ガイドライン（詳細版）の要点を簡潔にまとめ、概観を把握いただく位置づけとして作成したものです。

ガイドライン（詳細版）の目次

第１章　リカレント教育推進の背景
1．リカレント教育とは
2．リカレント教育が注目される背景
3．日本におけるリカレント教育の現状

第２章　大学等がリカレント教育に取り組む意義
1．大学等に期待される役割
2．大学等がリカレント教育に取り組む意義・メリット
3．大学等におけるリカレント教育の推進に向けた方向性

第３章　持続可能な運営モデルの構築に向けたポイント
✓ 企画・準備(Plan)、実施(Do)、評価(Check)、改善(Act)に係る課題と取り組みのポイント
⇒短期・中長期の双方の視点からPDCAを整理

ガイドライン（詳細版）の使い方

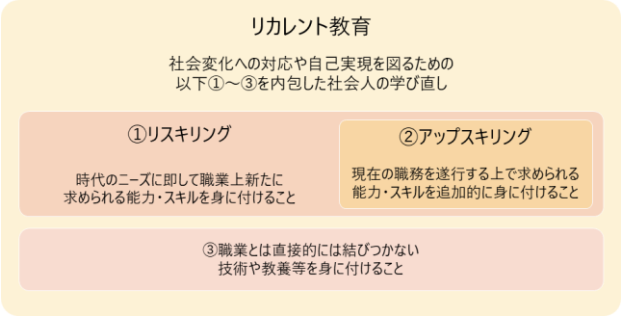
- ガイドライン（詳細版）では、リカレント教育の開発・運用に係る一連のプロセスに沿って課題や取組方針（取組のポイント）、事例等を整理しています。
- 主な読み手は、**リカレント教育の開発・運営に関わる大学関係者（理事・役員、教員、事務職員の皆様）**を想定しています。
- 読み方としては、リカレント教育講座の開設を検討する場合は、最初から順番に読み進めていくことで、一連の流れや留意点を理解することができます。また、運用改善にあたっては、その関連項目のみを参照する読み方も可能です。
- ガイドライン（詳細版）の内容を踏まえ、社会ニーズに応じたリカレント教育の開発に向けた検討をお願いします。

第１章　リカレント教育推進の背景

1. リカレント教育とは

- リカレント（recurrent）とは「循環」や「再発」を意味し、「リカレント教育」とは、社会人になった後も、必要なタイミングで教育機関や社会人向け講座に戻り、学び直すことを指します。「リスキリング」や「職業訓練（アップスキリング）」といった社会人を対象とした教育用語も混同されやすく留意が必要です。
- ガイドライン（詳細版）では、**リカレント教育とは、社会変化への対応や自己実現を図るための社会人の学び直し全般を指し、要素としてリスキリングやアップスキリング等が内包されるもの**として捉えています。

リカレント教育の範囲（イメージ図）※1

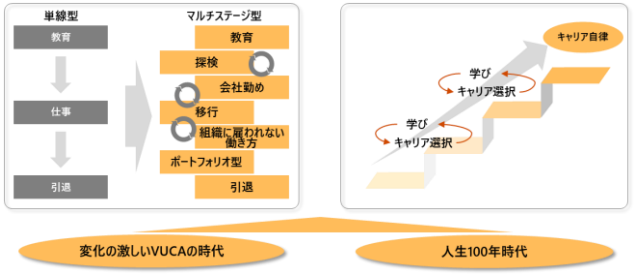


※1：第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（令和４年８月）より作成

2. リカレント教育が注目される背景

- 人生100年時代になり寿命が延び、働く期間の延伸とともに、社会全体のデジタル化により、学んだ知識が陳腐化し、仕事に求められるスキルが変わっていく状況下では、**単線型からマルチステージ型の人生モデルに変わっていくため、働く人が自発的に変化に対応するための学び（リカレント教育）が重要**となっています。

人生モデルの変化※2

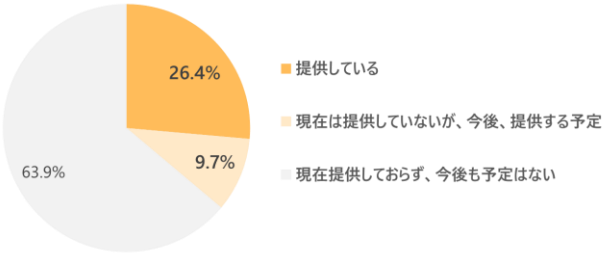


※2：第１回人生100年時代構想会議, 2017.『リンダ・グラットン議員提出資料（日本語訳）』

3. 日本におけるリカレント教育の現状

- 大学等(学部・研究科単位)において、**社会人を対象としたリカレント講座の提供状況について、「提供している」もしくは「現在は提供していないが、今後、提供する予定」と回答した割合は全体の４割にも満たない状況**です。
- 社会人のリカレント教育への関心は年々高まりを見せつつある一方で、リカレント教育を提供している大学等については、学部・研究科単位で見ると十分に多いとは言えない状況にあることがわかります。

リカレント講座の提供状況※3



※3：文部科学省 令和2年度「大学等におけるリカレント講座の持続可能な運営モデル構築に関する調査研究」調査報告書

第２章　大学等がリカレント教育に取り組む意義

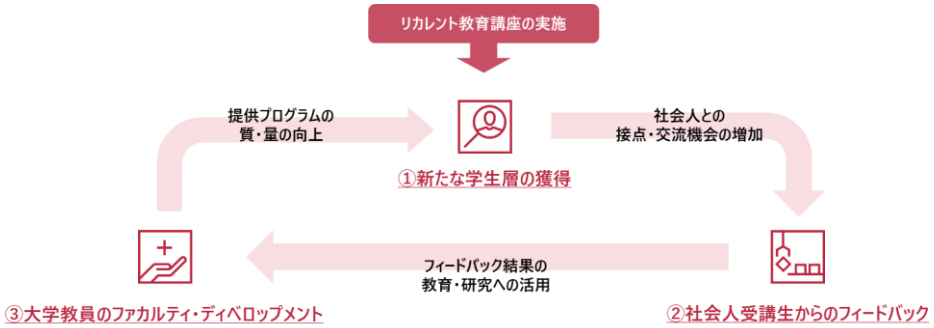
1.大学等に期待される役割

- 2018年に中央教育審議会が答申した「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」の中で明記されているように、大学をはじめとした高等教育と社会との関係において、リカレント教育は重要な位置づけにあり、**リカレント教育の実施は、これからの社会との関係において大学にとって欠かすことのできない取り組み**となっています。

2. 大学等がリカレント教育に取り組む意義・メリット

- 大学等がリカレント教育を実施する**メリットは、①新たな学生層の獲得、②多様な社会人受講生からのフィードバックによる教育・研究への反映、③大学教員のファカルティ・ディベロップメントへの寄与の３つ**が挙げられます。
- 特に、大学等の運営リソース（人員、財源等）に限りがある状況下では、①～③のそれぞれのメリットを単一的に求めるのではなく、上手く循環させる(①→②→③→①)など総合的なメリットを求めていくことが重要です。

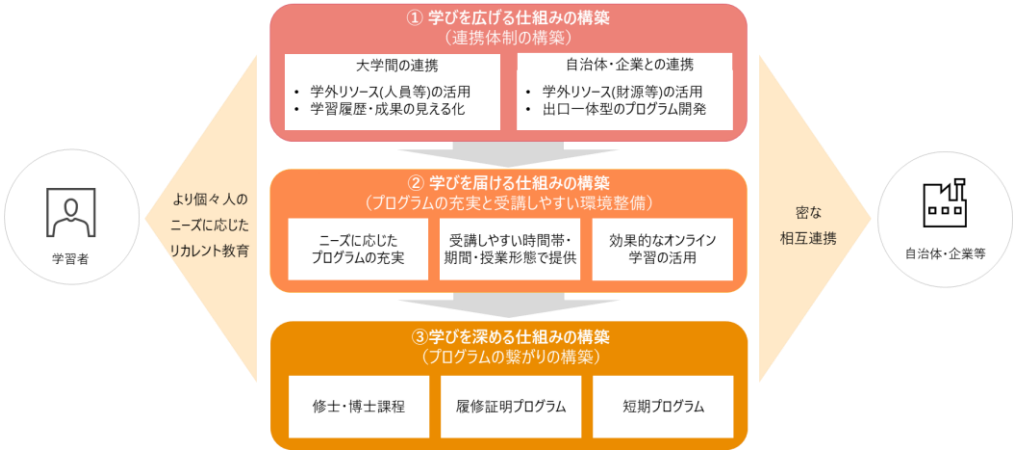
リカレント講座の実施を通じた好循環



3. 大学等におけるリカレント教育の推進に向けた方向性

- 地域のステークホルダー（自治体・企業等）と密な連携を図りながら、地域の学習者が継続的に学びを深め続けられる仕組み作りが重要です。
- 具体的には、**①学びを広げる仕組みの構築、②学びを届ける仕組みの構築、③学びを深める仕組みの構築**に取り組むことが挙げられます。

大学等におけるリカレント教育の推進に向けた方向性

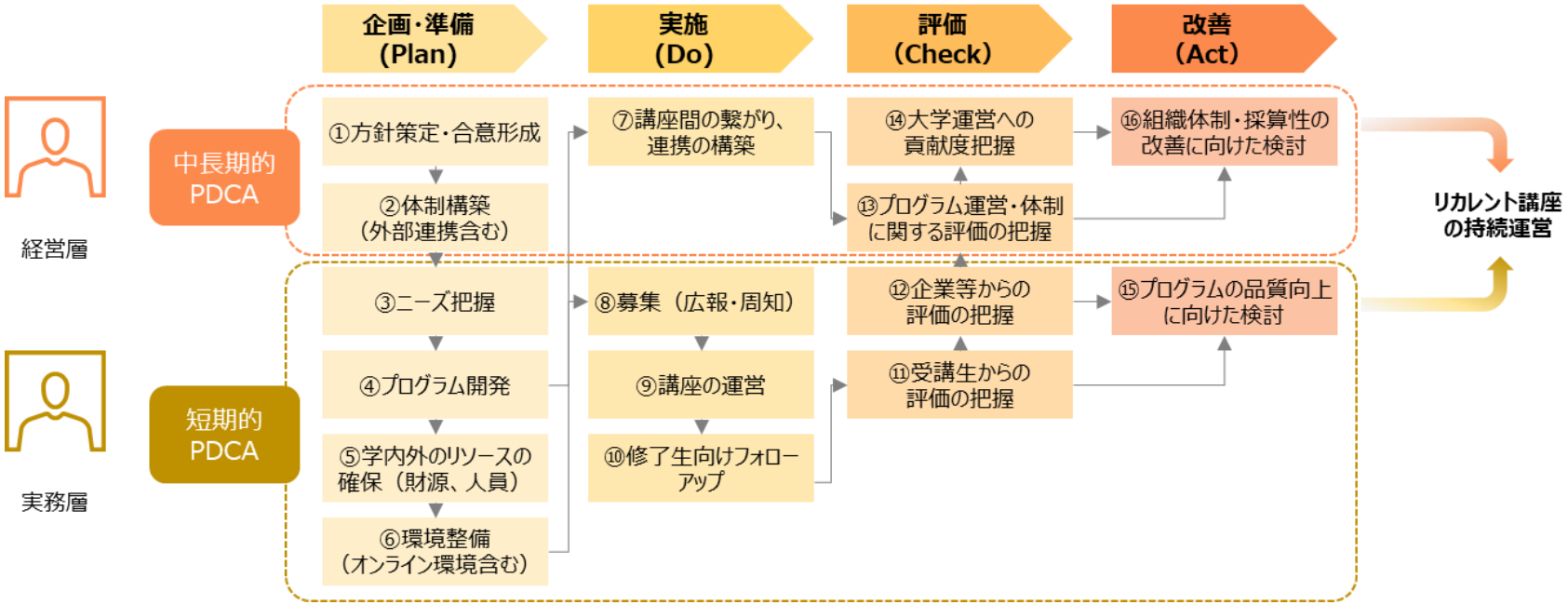


第３章　持続可能な運営モデル構築に向けたポイント

持続可能な運営モデル構築に向けたポイント

- リカレント教育講座の運営に際する課題としては「社会人が受講しやすい環境・制度の整備」が最も多く、次いで「受講生の確保」や「社会人のニーズ把握」、「学内の体制整備」や「教職員の確保」、「財源の確保」等の課題が挙げられています。
- そのため、ガイドライン（詳細版）では、上記の課題に対する取組のポイントについて、リカレント教育講座を開発・運用する一連のプロセスに沿って、①～⑯で整理しています。特に、経営層と実務層で視点を分けており、**経営層の方に向けては、大学としての方針の策定や組織・体制の在り方など、中長期的な視点から見た取組のポイントを整理**しています。
- 一方で**実務層の方に向けては、リカレント教育講座の企画・設計や講座運営、受講生・企業等からの評価の把握と次年度以降に向けた講座の改善など、短期的な視点から見た取組のポイントを整理**しています。

持続可能な運営モデル構築に向けた取組のポイント（短期的/中長期的な視点から見たPDCAと実施事項）



（ご参考）事例掲載大学一覧（五十音順）

※掲載箇所および担当部署、お問合せ先についてはガイドライン（詳細版）の巻末をご確認ください

大学名	プログラム名等
青山学院大学	ワークショップデザイナー育成プログラム
愛媛大学	地域創生イノベーター育成プログラム
大阪大学	エマージングサイエンスデザインR^{3}センター
金沢工業大学	組織活性化に向けたDXリスキル教育プログラム
関西学院大学	ハッピーキャリアプログラム
京都女子大学	リカレント教育課程
京都府立医科大学	with コロナ新時代の潜在保健師・看護師リカレント教育
神戸大学	食農ビジネスキャリア形成プログラム Society5.0と地方創生を加速させる次世代DXリーダ育成プログラム
下関市立大学	リカレント教育センター
信州大学	信州100年企業創出プログラム 大学院総合理工学研究科社会人プログラム
筑波大学	ITスキルを身につけたい人のためのライフキャリア醸成・就職支援プログラム
東京学芸大学	教育イノベーション推進人材育成プログラム 教育支援協働推進人材育成プログラム
東京工業大学	環境・社会理工学院 技術経営専門職学位課程 キャリアアップMOT(CUMOT)

大学名	プログラム名等
東北学院大学	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム
東北大学	産学連携教育イノベーター育成プログラム
東洋大学	情報連携学部（INIAD） INIAD cHUB
豊橋技術科学大学	社会人向け実践教育プログラム　地域社会基盤分野（農業分野）
中村学園大学	食MBAアドバンスコース
名古屋商科大学	ビジネススクール
日本福祉大学	リカレント教育×就職支援のDX推進による福祉業界でのセカンドキャリア形成プログラム
兵庫県立大学	社会科学研究科　経営専門職専攻
福井大学	産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成）
三重大学	DXによる中小企業の事業再構築・新事業創出を担える人材の育成
山口大学	DX-Ready 人材育成プログラム
立命館アジア太平洋大学	社会で働く人材のグローバル化養成プログラム（GCEP）
早稲田大学	スマートエスイー